

図書室から



令和6年7月1日発行
木更津市立波岡中学校
山崎香奈枝
No.3

星にまつわる話

牽牛(けんぎゅう)と織女(しよくじょ)が年に一度、7月7日の夜にだけ会えるという七夕の伝説は、奈良時代に中国から伝わりました。牽牛星は鵲座のアルタイル、織女星は琴座のベガ。星祭りの夜、二人は舟で天の川を渡って会うとも、鵲が羽を連ねた「鵲の橋」を渡って会うともいわれています。夏の夜空をゆっくりと見上げてみませんか。

7月11日(木)から18日(木)まで、夏休み特別貸出しを行います。貸出冊数は一人5冊、9月10日(火)までに返却をお願いします。

『星の神話・伝説図鑑』

藤井 旭 著 (ポプラ社)

夜空にきらめく星座には世界の神話・伝説に登場する神々や英雄の物語が秘められています。四季の星座を美しい写真で紹介、星座の探し方から星の神話まで、星空観察の楽しさを解説します。



『この夏の星を見る』

辻村 深月 作 (角川書店)

コロナ禍で、当たり前がなくなった2020年。住む場所も年齢もさまざまな全国の中高生がリモートでつながり、天文活動を通じて、ある計画を立ち上げます。爽やかな読後感の青春群像劇。



『銀河鉄道の夜』

宮沢 賢治 作 (新潮文庫)

星祭りの夜、ジョバンニは親友のカムパネルラと銀河鉄道に乗り、不思議な旅に出ます。

美しく幻想的な銀河系宇宙を舞台として、ふたりの友情や乗客との出会いと別れに、哲学的な人生観を交えた作品。死の直前まで賢治が推敲を重ねた、未完の長編童話です。

『星の王子さま』

サン・テグジュペリ 作 (岩波書店)

砂漠に不時着した飛行士が、遠い星から来た王子さまに出会います。「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」。忙しい生活の中で見失いがちな真実を、静かに語りかけてくれる珠玉の名作。読むたびに、新たな発見と感動に出合えます。

天の川を悠々と飛ぶ白鳥
しっぽにデネブを光らせて
頸の長い大きなスワンよ！
アンドロメダはまだいましめを解かれぬままだし
冠座はかぶりてのないままに
そつと置かれて誰かをじつと待っている
屑の星 粒の星 名のない星々
うつくしい者たちよ
わたくしが地上の宝石を欲しがらないのは
すでに
あなた達を視てしまったからなのだ きっと

夏の星に
茨木のり子
まばゆいばかり
豪華にばらまかれ
ふるほどに
星々
あれは蠍座の赤く怒る首星 アンタレス
永久にそれを追わねばならない射手座の弓
印度人という名の星はどれだろう

